

# サステイナブルな世界のために 互いの強みを発揮する

富士通社長

時田隆仁

ときた たかひと



世界は、今もなお新型コロナウイルスの脅威にさらされている。その影響を受け、経済活動や人の暮らしそのものが一変した。また環境問題や気候変動、社会的な格差といったグローバルな課題もさらに複雑化、深刻化しており、危機的な状況にあると言える。社会の常識や人々の価値観が問われる只中にある。企業には、近年、マルチステークホルダーと価値を共有し、これを高めていくパーパスドリブンな経営が求められており、ビジネスを通じて社会課題の解決に取り組むことを強く期待されている。将来の新しい経済社会の重要なエレメントとして、レジリエンスとサステイナブルがあると考ええる。自然災害やパンデミックなどの危機を克服し、成長し続ける持続可能性を有する社会を構築するために、企業が価値を提供することが求められている。進化し続けるデジタル・テクノロジーと、日々生じている膨大なデータを活用することが成長の鍵の1つとなる。IoTやモバイルネットワークによって全てのものが繋がり、このデータをリアルタイムに収集し、AIによって分析する未来予測型の社会を創造することが可能となる。グリーンな経済活動についても、ものづくりやモビリティなどの分野で、テクノロジーの活用が社会全体のエネルギーの最適利用と脱炭素化に貢献する。この実現のためには、企業が多様な人材を包摂し、イノベーションを生み出す主体となることがまず求められる。そして、他の企業だけではなく政府やアカデミア、研究機関、様々な社会や地域のコミュニティーを繋げていく行動が求められていくと考える。志や目指す姿を共有する人や組織が繋がって、お互いが持つ強みを結集し、いろいろなアイデアをぶつけながら新しい価値を創造する。必要な規制や制度の改革について、民間からも知恵を出す。互いの信頼のもとでそれぞれの強みを発揮することが、人々に豊かさをもたらす世界を切り拓くために不可欠となる。今から10年後の2030年は国連が定めるSDGsのゴール年、そして2050年はカーボンニュートラルを達成する年である。新しい経済社会の実現に向けて、経団連の皆様と力を尽くしたい。